

付 属 資 料

第1章 大阪府地域間産業連関表とは

1. 地域内表と地域間表

地域産業連関表には、地域内産業連関表（以下「地域内表」という。）と地域間産業連関表（以下「地域間表」という。）の2種類がある。

地域内表は、特定の一地域を対象として、その地域内における財・サービスの取引関係を記録したものである。平成12年2月公表の「平成7年大阪府産業連関表」は、これに当たる。

一方、地域間表は2つ以上の地域を対象として、地域相互間における財・サービスの取引関係を記録したものである。

2. 地域間表の意義

現代の経済活動は各地域間で密接に結びついており、都道府県内だけで完結する取引はむしろ例外的であるといえる。例えば、ある県Aで設備投資が行なわれると、その県内の投資財を利用するだけでなく、県外からの移輸入でまかなうことが多い。このような場合、A県での設備投資は投資財の移入先であるB県にも影響を与えることになる。そして、B県でその投資財の生産のために、さらにA県を含めた他地域から原材料を移入すれば、生産波及効果がそれらの県にももたらされることになり、当初A県で生じた需要は地域間で次々に生産波及していく。

地域間表は、ある特定の地域だけでなく関連諸地域をも対象としていることから、このような地域間の経済活動について整合性のある分析が可能である。

なお、経済波及効果計算における地域内表と地域間表の計算結果の相違は「第4章 地域間産業連関表の利用例」を参照していただきたい。

3. 平成7年大阪府地域間産業連関表の概要

(1) 地域区分

「平成7年大阪府地域間産業連関表」は、平成2年表と同様、次の3地域区分で作成している。

大阪府

他近畿地域.....福井県、滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県

近畿外地域.....大阪府及び他近畿地域を除く40都道県

地域区分については、昭和30年から45年の大阪府産業連関表で採用した2地域（大阪府、その他の地域）とする方法もあるが、2地域では密接な結びつきのある近畿経済との関係が解明されないことから、「他近畿地域」を1地域として区分し3地域の地域間表としている。これにより、大阪府、近畿府県、近畿外都道県の産業間の結びつきが明らかにされるとともに、経済波及効果の計算においても、大阪府外への生産波及効果を、近畿府県、近畿外都道県の地域に区分して計測することができる。

(2) 対象年次

平成7暦年である。

(3) 部門分類

独自に設定した86部門で作成作業を行い、13部門、31部門で公表した。

作業部門として86部門を設定したのは、大阪府地域間産業連関表の基礎となる全国表、近畿表、近畿内各府県表の部門分類に差異があるため、93部門全国表、100部門近畿表、93部門にできるだけ近い近畿内各府県表から、一部の部門を統合して同一の部門分類にそろえたものである。

公表部門である 31 部門は、平成 7 年大阪府産業連関表(地域内表)の 32 部門分類のうち、「31 事務用品」「32 分類不明」を統合し「31 その他」として表章した。これは、100 部門近畿表で「事務用品」と「分類不明」が個々には表章されておらず「その他」として表章されていることに合わせたものである。

(4) 表の形式等

表の形式は地域間非競争移入・競争輸入型である。また、価格評価は平成 7 年生産者販売価格で、かつ実際価格である。

4. 地域間表の見方

地域間表には競争移・輸入型と非競争移・輸入型があるが、ここでは大阪府表の形式である「非競争移入・競争輸入型表」の見方を述べる。

大阪府表では、内生部門は 31 産業部門であるが、単純化のために 3 部門で構造を表したのが第 1 - 1 図である。

第 1 - 1 図 非競争移入・競争輸入型の地域間産業連関表の基本構造

			中間需要									最終需要				輸 入	生 産 額
			地域 1			地域 2			地域 3			地域 1	地域 2	地域 3	輸 出		
			産 業 1	産 業 2	産 業 3	産 業 1	産 業 2	産 業 3	産 業 1	産 業 2	産 業 3						
中間 投入	地域 1	産 業 1	X_{11}^{11}	X_{12}^{11}	X_{13}^{11}	X_{11}^{12}	X_{12}^{12}	X_{13}^{12}	X_{11}^{13}	X_{12}^{13}	X_{13}^{13}	F_1^{11}	F_1^{12}	F_1^{13}	E_1^1	$-M_1^1$	X_1^1
		産 業 2	X_{21}^{11}	X_{22}^{11}	X_{23}^{11}	X_{21}^{12}	X_{22}^{12}	X_{23}^{12}	X_{21}^{13}	X_{22}^{13}	X_{23}^{13}	F_2^{11}	F_2^{12}	F_2^{13}	E_2^1	$-M_2^1$	X_2^1
		産 業 3	X_{31}^{11}	X_{32}^{11}	X_{33}^{11}	X_{31}^{12}	X_{32}^{12}	X_{33}^{12}	X_{31}^{13}	X_{32}^{13}	X_{33}^{13}	F_3^{11}	F_3^{12}	F_3^{13}	E_3^1	$-M_3^1$	X_3^1
	地域 2	産 業 1	X_{11}^{21}	X_{12}^{21}	X_{13}^{21}	∴	∴	∴	∴	∴	∴	F_1^{21}	F_1^{22}	F_1^{23}	E_1^2	$-M_1^2$	X_1^2
		産 業 2	X_{21}^{21}	X_{22}^{21}	X_{23}^{21}	∴	∴	∴	∴	∴	∴	F_2^{21}	F_2^{22}	F_2^{23}	E_2^2	$-M_2^2$	X_2^2
		産 業 3	X_{31}^{21}	X_{32}^{21}	X_{33}^{21}	∴	∴	∴	∴	∴	∴	F_3^{21}	F_3^{22}	F_3^{23}	E_3^2	$-M_3^2$	X_3^2
	地域 3	産 業 1	X_{11}^{31}	X_{12}^{31}	X_{13}^{31}	∴	∴	∴	∴	∴	∴	F_1^{31}	F_1^{32}	F_1^{33}	E_1^3	$-M_1^3$	X_1^3
		産 業 2	X_{21}^{31}	X_{22}^{31}	X_{23}^{31}	∴	∴	∴	∴	∴	∴	F_2^{31}	F_2^{32}	F_2^{33}	E_2^3	$-M_2^3$	X_2^3
		産 業 3	X_{31}^{31}	X_{32}^{31}	X_{33}^{31}	X_{31}^{32}	X_{32}^{32}	X_{33}^{32}	X_{31}^{33}	X_{32}^{33}	X_{33}^{33}	F_3^{31}	F_3^{32}	F_3^{33}	E_3^3	$-M_3^3$	X_3^3
粗 付 加 価 値	地域 1	雇 用 者 所 得	W_1^{11}	W_2^{11}	W_3^{11}	W_1^{12}	W_2^{12}	W_3^{12}	W_1^{13}	W_2^{13}	W_3^{13}						
		企 業 所 得	${}_1^{11}$	${}_2^{11}$	${}_3^{11}$	${}_1^{12}$	${}_2^{12}$	${}_3^{12}$	${}_1^{13}$	${}_2^{13}$	${}_3^{13}$						
	地域 2	雇 用 者 所 得	W_1^{21}	W_2^{21}	W_3^{21}	W_1^{22}	W_2^{22}	W_3^{22}	W_1^{23}	W_2^{23}	W_3^{23}						
		企 業 所 得	${}_1^{21}$	${}_2^{21}$	${}_3^{21}$	${}_1^{22}$	${}_2^{22}$	${}_3^{22}$	${}_1^{23}$	${}_2^{23}$	${}_3^{23}$						
	地域 3	雇 用 者 所 得	W_1^{31}	W_2^{31}	W_3^{31}	W_1^{32}	W_2^{32}	W_3^{32}	W_1^{33}	W_2^{33}	W_3^{33}						
		企 業 所 得	${}_1^{31}$	${}_2^{31}$	${}_3^{31}$	${}_1^{32}$	${}_2^{32}$	${}_3^{32}$	${}_1^{33}$	${}_2^{33}$	${}_3^{33}$						
生 産 額			X_1^1	X_2^1	X_3^1	X_1^2	X_2^2	X_3^2	X_1^3	X_2^3	X_3^3						

表は縦方向と横方向の 2 方向からみることができるので、以下ではそれぞれについて説明する。

(1) 表の縦方向

表を縦方向にみると、当該地域で、ある産業の生産を行うために投入された原材料(中間投入)、労働・資本など(付加価値)が、どの地域のどの部門から調達されたかを示している。例えば、地域 1 の産業 3 の列を例に説明すると、生産額 X_3^1 を生産するために、地域 1 の産業 1 からは X_{13}^{11} が原材料等として中間投入され、地域 1 の産業 2 からは X_{23}^{11} 、地域 1 の産業 3 からは X_{33}^{11} が投入、同様に地域 2、3 からは $X_{13}^{21} \sim X_{33}^{31}$ が投入されたことを示している。さらに、地域 1 から雇用者所得 (W_3^{11}) と企業所得 (${}_3^{11}$) が投入され、地域 2 からは W_3^{21} 、 ${}_3^{21}$ を、地域 3 からは W_3^{31} 、 ${}_3^{31}$ が投入されたことを示している。

従って、 $X_{13}^{11} \sim X_{33}^{11}$ の合計は、地域1の産業3の生産額(X_3^1)に一致し、さらに $X_1^1 \sim X_3^1$ の合計は地域1の地域内生産額に一致している。

(2) 表の横方向

表の横方向は、各地域の各産業がどの地域のどの産業に生産物を販売したかの販路構成が示される。例えば、地域1の産業2は、地域1の産業1に X_{21}^{11} 、地域1の産業2に X_{22}^{11} 、.....というように需要されていくことを示している。 $X_{21}^{11} \sim E_2^1$ の合計から輸入(M_2^1)を差し引くと、生産額(X_2^1)に一致する。

(3) 地域内表との関係

平成7年大阪府産業連関表(地域内表)は、競争移輸入型の産業連関表であるため、移輸入額を区分せず中間需要部門や最終需要部門に合計して計上するとともに、「移入」「輸入」欄で一括して控除する方式をとっている。地域間表は、このうち他都道府県からの移入部分を非競争移入力として分割して計上しているため、第1-2図の関係が成り立つ。

なお、 X_{21}^{11} は他近畿から大阪府へ移入した中間投入、 X_{22}^{11} は近畿外から大阪府へ移入した中間投入であり、 E_2^1 は他近畿から移入した大阪府の最終需要、 M_2^1 は近畿外から移入した大阪府の最終需要である。従って、 $X_{21}^{11} \sim E_2^1$ の合計は大阪府地域内表の移入額に一致する。同様に X_{31}^{11} は大阪府から他近畿へ移出(他近畿からみれば大阪府から移入)した中間投入、 X_{32}^{11} は大阪府から近畿外へ移出した中間投入、 E_3^1 は大阪府から他近畿へ移出した最終需要、 M_3^1 は大阪府から近畿外へ移出した最終需要であるため、 $X_{31}^{11} \sim E_3^1$ の合計は大阪府地域内表の移出額に一致する。また、 X_{11}^{11} 、 X_{21}^{11} 、 X_{31}^{11} は、それぞれ大阪府地域内表の内生部門計(中間投入・中間需要計)粗付加価値部門計、府内最終需要計、輸出計、輸入計と一致する。従って、 $X_1^1 \sim X_3^1$ は大阪府内生産額に一致し、各地域の生産額合計である937兆1006億円は全国表の国内生産額に一致する。

第1-2図 平成7年大阪府地域間産業連関表と地域内表の関係

[地域間表] (単位: 億円)

	中間需要				最終需要				輸出	輸入	生産額	
	大阪府	他近畿	近畿外	合計	大阪府	他近畿	近畿外	合計				
中間投入	大阪府	199,665	64,666	81,459	345,791	277,512	33,691	53,557	364,760	35,461	-29,027	716,985
	他近畿	58,713	215,221	125,999	399,934	30,247	381,153	110,566	521,967	40,260	-46,549	915,611
	近畿外	50,323	160,058	3,362,441	3,572,822	34,776	118,152	3,981,950	4,134,878	392,370	-361,660	7,738,410
	合計	308,701	439,946	3,569,899	4,318,547	342,535	532,996	4,146,074	5,021,605	468,091	-437,236	9,371,006
粗付加価値	大阪府	396,180	4,581	11,393	412,154							
	他近畿	1,535	441,337	20,033	462,904							
	近畿外	10,569	29,748	4,137,084	4,177,401							
	合計	408,284	475,665	4,168,510	5,052,460							
生産額	716,985	915,611	7,738,410	9,371,006								

[地域内表] (単位: 億円)

	中間需要	府内最終需要	輸出	移出	輸入	移入	府内生産額
中間投入	308,701	342,535	35,461	+ + 233,374	-29,027	+ + 174,060	716,985
粗付加価値	408,284						
府内生産額	716,985						